NEXT STEP

～怒涛の２年間を越えて、私たちが選んだ道～

右も左も分からなかった国家試験明けの春から、あっという間に過ぎ去った初期臨床研修。救急外来でのプレッシャー、初めて主治医として患者さんを受け持った日の緊張、そして同期と励まし合った夜――。楽しかったことばかりではない、悩みや葛藤も多かった怒涛の期間を、先輩たちはどのように駆け抜けたのでしょうか。そして迎える、医師人生における最初の大きな分岐点「専門研修（専攻医）の選択」。
新企画「NEXT STEP」では、初期臨床研修を終え、専門研修を始めたばかりの若手医師にインタビュー。
研修期間中のリアルな振り返りから、「なぜ今の診療科を選んだのか」「なぜこの病院（NHO）に決めたのか」というキャリア選択の裏側まで、包み隠さず語ってもらいます。今回は、三重中央医療センターで初期研修を終え、同院で専攻医としての第一歩を踏み出したお二人のリアルな声をお届けします。

「直感」が導いた消化器外科――優しさに惹かれた１年目の夏

国立病院機構 三重中央医療センター　消化器外科 専攻医１年目 **川村 啓悟**



三重中央医療センター
消化器外科 専攻医１年目
川村 啓悟

出　身　地：大阪府
出身大学：三重大学（2024年卒業）
部　　活：バスケットボール部
座右の銘：克己

ここが決め手！

学生時代はずっと整形外科を志望していました。しかし初期研修1年目の夏に消化器外科をローテーションした際、先生方の温かさと丁寧な指導に強く惹かれ、その経験をきっかけに気持ちは大きく傾きました。緊急が多いことへの不安もありましたが、「この先生方と一緒に働きたい」と思えたことが最大の決め手となり、2年目の秋に消化器外科を選びました。

専攻医になって成長したこと

専攻医になり、入院患者さんの管理や緊急手術の執刀を、最初から任されるようになりました。もちろん指導体制のもとですが、一人で手術を任せてもらえることに大きなやりがいを感じています。夜間の緊急手術後、患者さんから直接「ありがとうございます」と声をかけていただける瞬間が、一番の励みになっています。緊急対応の大変さの中にこそ、外科医としてのやりがいとかっこよさがあると思います。

もし研修医1年目の自分にアドバイスするなら？

「それぞれのローテーションをもっと大事にして、各科の勉強をしておけばよかった」と伝えたいです。一方で、研修中は有休を使って3～4回ほど海外旅行に出かけ、思い切り遊んだことは本当に良かったと思っています。むしろもっと遊んでもよかったくらいです。初期研修を終えた段階は「何にでもなれる無敵の状態」。体力や手先の器用さといったスペックで深く考えすぎず、「楽しそう」「この先生と働きたい」という直感を大切にしてほしいです。

「NEXT STEP」――これからの進路目標について

将来は、大学病院ではなく市中病院で、若手を指導しながら自分自身も現場で手術を続ける医師になりたいです。腹腔鏡手術の技術認定取得を目標に、大腸・直腸の悪性腫瘍手術はもちろん、横隔膜近くまで及ぶダイナミックな胃・食道の手術にも積極的に挑戦していきたいと思っています。



三重中央医療センター
脳神経外科 専攻医１年目
野村 冴良

出　身　地：愛知県
出身大学：三重大学（2024年卒業）
部　　活：サッカー部
座右の銘：後は野となれ山となれ

「行きたくない科トップ３」から脳神経外科へ――出会いが変えたキャリア

国立病院機構 三重中央医療センター 脳神経外科 専攻医１年目　**野村 冴良**

ここが決め手！

入職時は精神科6割、整形外科4割くらいの気持ちで、脳神経外科はむしろ「一番行きたくない科トップ3」に入っていました。しかし必修の循環器内科をローテーションした際に急性期医療の面白さに目覚め、2年目の春に脳神経外科を回ったところ、脊椎・外傷・手術と幅広く経験できる点に強く惹かれました。何でもできる指導医の姿に「かっこいい」と感じたことが最終的な後押しとなり、2年目の11月、脳神経外科を選びました。

専攻医になって成長したこと

研修医時代は最終的な判断を上級医に委ねていましたが、今は夜間の救急対応でも、本当に困ったとき以外は自分の判断で動くようになりました。自分で決断する怖さや責任の重さは増しましたが、自分の手で手術ができるようになり、技術の向上を実感できることが、何より楽しさにつながっています。

もし研修医1年目の自分にアドバイスするなら？

僕は有休をほとんど使わなかったので、「もっと遊んでおけ」とアドバイスしたいですね。医学生や研修医の皆さんには、学生時代の先入観を持たず、敬遠せずにすべての科を実際に見て回ることをお勧めします。僕自身、最初は脳神経外科を完全に避けていたのに、実際に触れてみて評価が一変しましたから。外科系の魅力は、知識だけでなく技術がともなうことで、自分の成長をはっきりと実感しやすい点だと思います。

「NEXT STEP」――これからの進路目標について

将来は、血管内治療・脳卒中・脊椎・外傷など、脳神経外科の全分野を幅広くこなせる医師を目指しています。まずは若手のうちに外傷や脳卒中の経験を積み、ゆくゆくは脊椎など専門的な分野にもしっかり取り組んでいきたいです。



BACK NUMBER × バックナンバー

過去の「NHO NEW WAVE」がWEBサイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ　検索

NHO 本部公式SNSアカウント

facebook　𝕏

本部のSNSで発信したい情報があれば広報係までご相談ください！

NHO NEW WAVE
読者アンケート実施中！
◀左記二次元コードよりご協力ください